

## 平成22年度 教育実習修了生へのアンケート結果

文学部教職課程

准教授 瀬戸口 昌也

准教授 今井 航

### 1. アンケートの実施目的

教育実習を終えた教職課程履修者に対して、平成22年11月26日（金）に事後の実習指導が行われた。その際、アンケートを実施した。本アンケートは、平成19年度から実施しており、今回で4回目となる。

教育実習の内容はどうであったか。また、実習を終えてどのような変化があったか。今回もそのような問いを教育実習の修了生に投げかけ、彼らがそれに対して自らどのように評価しているのかを答えてもらった。

### 2. 方法

当日は、79名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて教育実習に関する評価と自己評価の二点であった。いずれも、5段階評価を採用した。5段階は、以下のように設定した。

5 強くそう思う 4 そう思う 3 どちらともいえない 2 そう思わない 1 全くそう思わない

上記1から5までのうち一つだけ数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、その他として主に教員採用試験に関する事項を調査した。さらに、教職課程への要望を自由に記述してもらった。より具体的に示すと、以下の通りである。

#### I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	5	4	3	2	1
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	5	4	3	2	1
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	5	4	3	2	1
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	5	4	3	2	1
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	5	4	3	2	1

#### II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	5	4	3	2	1
②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	5	4	3	2	1
③大学卒業後は、教職関係（公・私立の臨時・非常勤講師、塾講師など）に就職したい。	5	4	3	2	1
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。	5	4	3	2	1

#### III. その他（YesかNoのどちらかに○印を付けてください）

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。	Yes	·	No
②あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。	Yes	·	No
③今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。	Yes	·	No
④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes	·	No

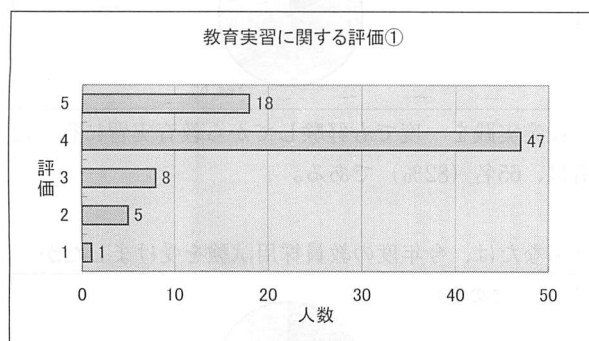
#### IV. 教職課程への要望（下の空欄に、実習の事前・事後指導や講義・演習のことなど自由に書いてください）

### 3. アンケート結果

それでは、項目ごとに結果をみてみよう。

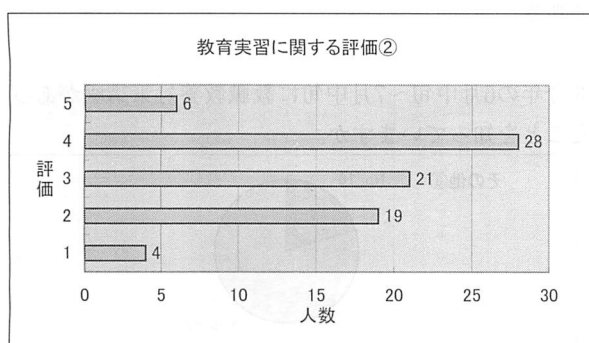
#### I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



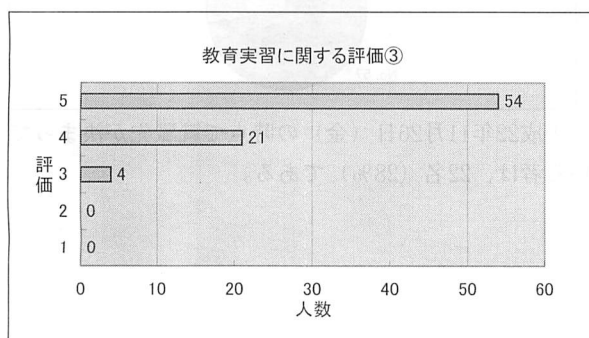
65名（82%）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



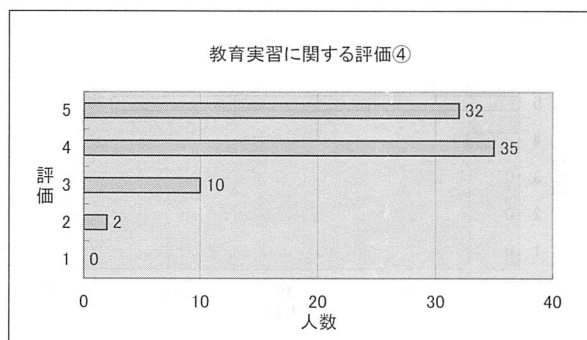
1名だけ無回答であった。学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた者はこの場合78名中34名（44%）である反面、44名（56%）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



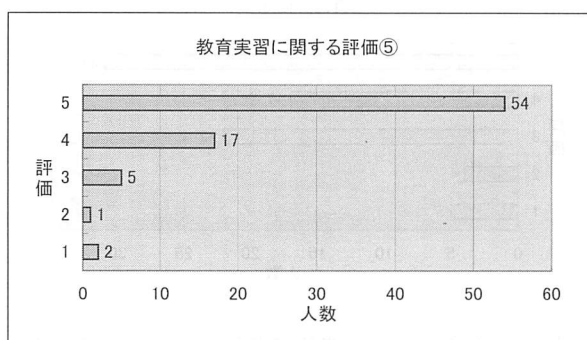
75名（95%）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



67名（85%）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

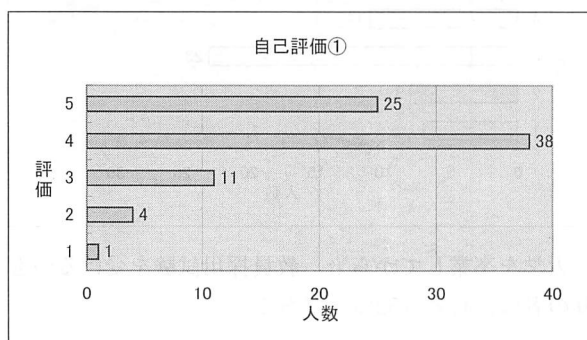
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



71名（90%）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。一方で、ごく少数ではあるが、そうではなかったとする回答もみられる。

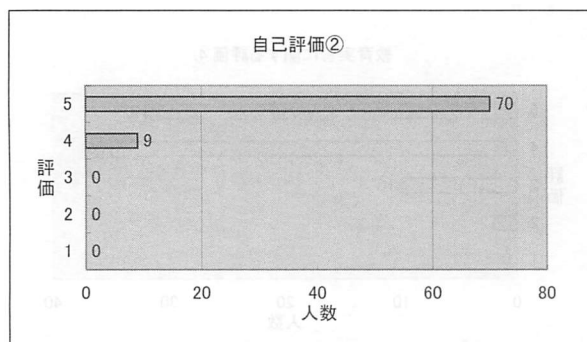
#### II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



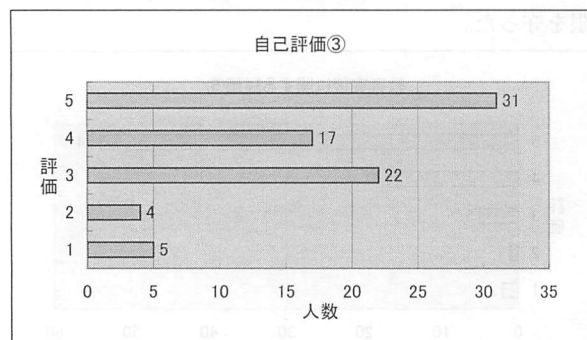
63名（80%）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



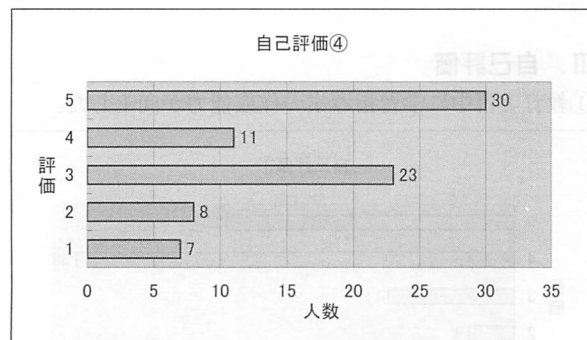
79名（100%）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、48名（61%）である。

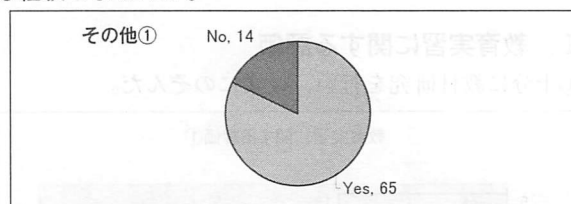
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、教員採用試験を受けるつもりの方は、41名（52%）である。

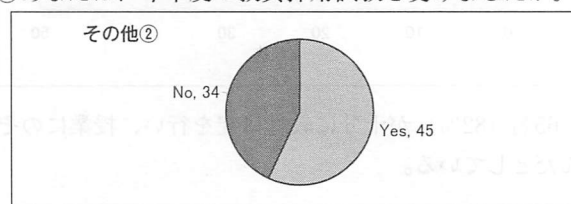
### Ⅲ. その他

①教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験しましたか。



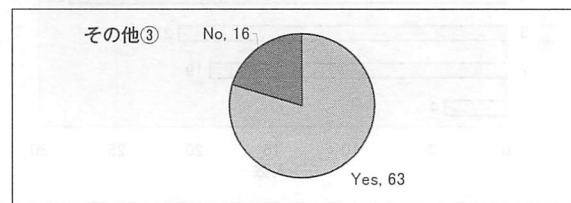
授業実践を一度でも経験してから教育実習に行った者は、65名（82%）である。

②あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。



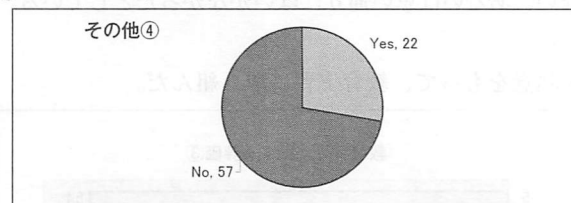
今年度の教員採用試験を受けた者は、45名（57%）である。

③今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。



63名（80%）が今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていたとしている。

④あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



平成22年11月26日（金）の時点で就職先が決まっている者は、22名（28%）である。

#### IV. 教職課程への要望

各学科とも記述がみられた。その中から学科ごとに一点ずつを抜粋し、以下に掲載する。

- ・最近、講義で模擬授業を観察して思ったのだが、熱意のあることは大変素晴らしいと思うが、いかんせん自分の授業に自信を持ちすぎている節があるので、自分を見つめ直すという客観性を養った方が良いのではないかと感じた。(国文学科)
- ・教職教養対策講座の宣伝をもっとした方がいいと思う。(英文学科)
- ・指導案の書き方などについての指導をもっと詰めて行って欲しいです。(史学科)
- ・事前の指導で講義された一つ一つがとても重要なものだった。(芸術文化学科)
- ・先輩方の実習先での話を聞いたことで、実習先でのやり方に少し予習ができたのでよかった。(文化財学科)
- ・実際は相手が高校生であったので、授業をわかりやすくする事を心がけてやれる授業が必要でした。(人間関係学科)
- ・学科の専門科目と講義・演習が重なることが多く、4年次まで必修の講義がずれ込むことがありました。カリキュラムをもう少し組み替えて欲しいと思いました。(食物バイオ学科)
- ・事前の指導で実習に行った先輩たちの話を聞いたことが参考になりました。(食物栄養学科)

#### 4. まとめ

冒頭でも述べたように、今回は本アンケートを実施し始めてから4回目となる。昨年度発行の『教職への道』No.30では、アンケート開始3回目の結果報告を掲載し、そこで各項目に対する肯定的な回答の割合が1回目や2回目と比べ、おおよそ少しずつ上昇していることを指摘した。今回の結果は果たしてどうであったか。

ここでは、今回の結果の特徴を見るため、項目ごとに前回と比べてみよう。以下の通りである。

- I-①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。(前回比+16%)
- I-②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。(前回比+6%)
- I-③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。(前回比+12%)
- I-④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。(前回比+17%)
- I-⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。(前回比+1%)
- II-①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。(前回比+10%)
- II-②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。(前回比+3%)
- II-③大学卒業後は、教職関係に就職したい。(前回比+15%)
- II-④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。(前回比+9%)

いずれの項目においても割合の上昇が見られたことが今回の特徴といえる。

これまでの結果報告では、教育実習を終えた教職課程履修者について「十分に教材研究を行い、熱意をもって授業にのぞみ、積極的に生徒に接している」、あるいは「遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている」、さらには「教育実習を通して学習指導案の作成能力が向上している」といった指摘がなされてきた。今回も同じように指摘することができるし、同時にその割合がいっそう増えたことも指摘できるであろう。平成23年度以降に教育実習に臨む教職課程履修者は、是非ともこうした先輩たちの跡を継いで欲しいと強く願う。

一方、「大学生」といっても学校現場にひとたび入ったら生徒やその保護者からみれば、ひとりの「教師」である。特に、学習指導案の作成能力の向上はもちろんのこと、授業自体の質的な向上を目指していきたい。III-①で教育実習に行く前に模擬授業など授業実践を一度でも経験したことがあると回答した割合が82%（前回比+12%）と高いが、ここでは教職課程履修者全員がそうした姿勢になることを望む。あらかじめ模擬授業を実践していれば、本番の授業のための改善点が先に明確になるし、改善を繰り返すことが授業自体の質的な向上をもたらすからである。

また、III-②で教員採用試験を受験した割合が57%（前回比+20%）と半数を超えている。半数を超えたのは、本アンケートを開始してから初めてのことである。教職課程では更なる割合の上昇を期待している。教員採用試験を受験し、また受験し続けてこそ、教員としての資質・能力を問うことができるし、自らの立ち位置と進むべき道が明らかになるであろう。

われわれ教員も、本学教職課程履修者の要望にひとつひとつ応えていくつもりである。本学で教員養成の段階を過ごす学生のなかから一人でも多くの優れた教師を輩出していきたい。